

# 八中3年人権だより

徳島市 八万中学校  
3年生 第5号  
2024年 5月 8日  
編集・文責 吉成正士

(第4号からのつづき)

## 今を大切に、日ごろからの感謝を忘れず

■第1回学年全体人権学習を終えて、日常に感謝すること、当たり前を当たり前と思わないことの大切さ、そして難しさが分かりました。やっぱり自分が当たり前だと思っているものが当たり前じゃなくなったときは、その不便さなどに気づくけれど、それが当たり前に戻ったとき、当たり前だと思っている幸せに感謝できていないと思います。家族や友達が健康で、そばにいるこの日常ともどんな形になるかは分かりませんが、「別れ」があると思います。そのときに、「〇〇してあげたらよかったな」などの後悔や悲しみの気持ちより、「〇〇してよかった」「〇〇してあげられてよかった」という思いをもって別れを迎えられたらいいのかなと思います。そうするために、今を大切に、日ごろからの感謝を忘れずに生きていきたいです。

4組庄野大地

医療の進歩などにより、人間の寿命は長くなりました。またそれは、IPS細胞など医療技術の更なる進歩により、これからも格段に伸びていくようです。

もし、人間が永遠の命を手に入れたなら…。それは古来からの人類の夢でもあります。ですが、そうになると、「今」を大切にできなくなるのかもしれませんが。命が永遠にあるわけですから。人に与えられた時間は有限だからこそ大切に思えるのであって、それが無限となれば、人は努力しなくなるのかもしれませんが。それでも人に知的好奇心がある以上、おそらく人は進歩していくでしょう。さて、人類はこの二つの命題を、どう解いていくのでしょうか。



## 信頼関係を築くため、まず自分を語る

■今回も峠というまとまりで、みんなの目標や困難、考えを知ることができました。特に心に深く刺さったのは、「努力」について。そしてその努力の仕方。もう一つ、人権学習の意味についてです。僕の今までの考え方は、ひたすら努力して、結果が表れるまで、表れても新しいことを求

め続けるというものでした。でもその考え方だと、無理に周囲を巻き込んで、自分の価値観を押しつけてしまうようなことがありました。「努力をすれば報われるのではなく、報われたいから努力をして」(目標をもって自分に厳しくする)と聞いて、納得しました。だから受験や部活には、仲間と一つにまとめられる共通の目標が大事なんだ。その目標は、互いにコミュニケーションをとること、そして信頼関係を築き合うことで共有できる。まず、自分を語ることなんだと理解できました。自分たちができていないのに、他の人にその自分の基準を押しつけてはいけけない。他の人の悪いこと、苦手なことはばかり見て判断するのではなく、もっといいところ、もっと見習うべきところを見つけるべきだ。つづく反省しました。もう自分たちは守られる身から飛び立ち、社会に学びます。そのことを分かって、少しずつ大人感覚、対応を身につけます。 2組酒井晴生

この思いにはすごく共感できます。私も、自分の価値観を押しつけてしまっている部分を感じるからです。そのときにいつも葛藤し、反省し、学び直しをします。しかしそう思えるのも、他者の意見や考えにふれるからだと思います。人間はなかなか完成には至りません。一生完成はしないのかもしれませんが。それでもどこまでも、完成に近づく努力を積み重ねていくものなのかもしれません。

一つの峠にやっとたどり着いても、そこにはまた新しい景色が開け、次の峠が見えてきます。どの峠に進むかは自分次第です。そこにはまた新しい出会いがあり、学びがあるのだと思います。それもまた楽しいものです。人生とはきっと、その繰り返しののです。

## 峠を乗り越えながら、一生懸命に生きよう

■「峠とは人生そのものだ」という人もいれば、「峠とは目標だ」という人もいた。私にとっての“今”の峠とは、卒業、そして受験だと思っている。「人生そのもの」と言う人は、「毎日別の峠があって、それを越えるために人は日々頑張っている」と言った。「目標」と言う人は「目標にたどり着くまでも、峠にたどり着くまでも、様々な困難や試練がある」と言った。みんなの意見を聞けば聞くほど、人には人それぞれの「峠」があるんだと思った。別れを峠と言う人もいれば、出会いを峠と言う人もいる。様々な峠を乗り越えて、乗り越えた先にまた峠がある人、あるいはない人も、乗り越える前には見ることのない新しい世界、景色が見えてくるとも誰かが言った。私にも、今までにない別の世界が見られるのかは自分次第だけど、それまでの過程でどうしても一人では乗り越えられないことがあれば、周りを頼ろうと思う。毎日の様々な峠を乗り越えながら、一生懸命に生きようと、今回の学習で学んだ。また次も精いっぱい人権学習に取り組みたい。 5組下村美侑



皆さんの発表を聞いていて、こんなにも「峠」の解釈があるんだと、本当に感心しました。確かに“受験だ”と言う人は多かったですが、それにあわせて、いろんな思いを語ってくれました。そのどれもが似ていても同じではなく、少しずつ違うところが、聞いていて面白かったです。中学生の持つ感性に脱帽です。

今回、「今のあなたにとって、「峠」とはなんですか。」と問いましたが、「あなたにとって、このような「人権学習」の時間にはどんな意味がありましたか。」とも聞きました。それに対しての皆さんそれぞれの語りは実に多彩で、本当に素晴らしくて、それはまるで珠玉のようでした。このまま思い出として消えてしまうのはあまりにももったいないので、一部ですが、いくつかここに残しておきたいと思います。

◆これまで学んだ人権学習を通して、過去の人々の努力を見て、私もこんな人になりたいという思いがあるので、頑張ろうと思います。今思えば、「恥でないことを恥と思うとき、本当の恥となる」という言葉に、ずいぶんと救われたと思います。テストでどれだけ友達に馬鹿にされても、発表で間違えたりとか、自分の感性を否定されたりとか、どんな些細なことでも、私の感性はその言葉にとっても救われたと思います。この言葉に会えたのは人権学習のおかげだとも思いました。これからも主体的に学習に取り組み、誰かを救える、共に闘える、そんな存在になりたいと思いました。(3組山崎悠加)

◆私にとってこれまでの人権学習は、これから社会に出て必要な力、今ふれている周りのみんなと、上手く付き合い、向き合う力をつけてくれる時間です。誰かを傷つけないために、自分の意見をぶつけ合い、学んでいく機会は、これからほとんどできなくなるかもしれないから、今できる最大限の人権学習に取り組みたいです。(5組下村美術)

◆人権学習では、たくさんのステキな人の思いを知ること、自分もあの人のようになりたいたか、今の自分のここを変えたいと自分を見つめ直し、レベルアップした自分になることができました。成長させてくれた人権学習には、とても感謝しています。(1組三谷千尋)

◆高校生になっても人権に対する意識を下げないで、できれば上げられるようにするために、普段から人権意識をもったり、ニュースを取り込んでいきたいと思いました。人を傷つけないために、もっと人権学習をしていきたい

です。(3組奥村明日香)

◆人権学習の時間は、自分自身の大切さと、他人の意見の大切さを学んでいく時間だと思います。班で伝えたり、発表を聞いたりしているとき、他人を知るための大切な時間だったと思います。(3組濱田真緒)

◆受験が終わって高校生になったあと、今みんなでやっている人権学習で学んだ自分の意見の伝え方や、人の意見の聞き方とかがすごく生かされると思うし、今この学年で意見を伝え合う会話をしていることで、私は個人的に、この学年の人と会話というか、クラスとかでもものを言いやすくなって、いい雰囲気になったなと思うので、人権学習ができてすごく良かったなと思います。(2組笠原菜々実)

◆私は努力することが嫌いです。頑張るとか熱心とか言われても、前はよく分かっていませんでした。でも中学に入って人権学習を受けていると、吉成先生が熱心に生徒に対して人権を語って、それにつられて生徒も考えたり、発表したりして頑張っていて、「あー、頑張るとかっということはこういうことなんだ」って思えました。私にとって人権学習は、頑張ることや努力すること、それを継続することを知るという意味があったと思います。それでも私はやっぱり努力することが嫌いで面倒くさくて、自分に負けてしまうときがあります。だから学ぶだけじゃなく、知ったなら行動に移し、自分という峠を越えていきたいです。(3組柳本真亜莉)

◆自分にとってこの人権学習の時間は、心の整理だと思っています。いろんなことに目を向けて考えて行動したり、伝え合ったりする。そうすることで幅広く社会を見れるようになるための人権学習と思うので、これから数回しかない人権学習を主体的に学び続けていこうと思います。(4組尾杉和都)

◆私にとっての人権学習は、世界を知るツールでもあれば、自分自身と向き合う時間でもあったと思います。この2年で私自身のことをより深く考えられるようになったと思います。(6組川上夏樹)

◆人権学習をしているなかで、多くの人や物事と出会いました。この学年での人権学習の機会もあるし、いろんな成長があったと思います。これからも受験など、いろいろな達成しないといけないこともあると思いますが、私は今までしてきた人権学習の思いを重ねて頑張っていこうと思います。(5組藤井葵)

「私たちにはこれがあった」と、堂々と話していきませんか。

皆さんの動画を観たり、音声を聴いたり、感想を読んでいると、この学習の必要性や重要性、有効性が、総体としてピンピン伝わってきます。皆さん一人一人は不完全な存在かもしれませんが、総体としては完全な存在として感じられます。これは、1度や2度の学習ではそうはならなかったものを、積み重ねることになった、皆さんにとっての得難い財産です。

「私たちにはこれがある」と、堂々と伝えられるか、これからはそれが問われていきます。(第6号につづく)